

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0478
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	東京都八王子市高倉町4 6 - 1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
栽培活動を通して、気象状況に大きく左右されることでナスが十分に実らないという現実直面した。
この経験から地球全体で起きている異常気象が私たちの身近な食物の生育にも影響していることを知る機会となった。
その中でも収穫できた小ぶりのナスをどのように活用できるか、無駄にしない方法を考え、野菜の皮を用いた色水作りをきっかけに自然素材を活かした染め物活動へと展開することができた。

2. 活動スケジュール

7月：野菜の皮を使った色水遊び、8月：玉ねぎの皮で自然染め、9月：オリジナルバンダナを使った洗濯ごっこ、ナスの葉っぱでたたき染め、12月：表現発表会、クッキングの時にバンダナとして着用遊びの中で取り入れ、現在も継続して使用している。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・ 3種類程の身近な野菜の皮 (ナス、にんじん、玉ねぎ)
・ 白いバンダナ
・ 輪ゴム
・ トンカチ
・ 泡、タライ (洗濯ごっこ)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

栽培していたナスをきっかけに、野菜の皮（ナス、にんじん、玉ねぎ）を用いた色水づくりを行った。作った色水でコーヒーフィルターに絵を描き、色の違いや濃淡を楽しんだ。

その後、玉ねぎの皮を使い、布の染め物に取り組み、ゴムの位置を自分で決めて模様作りを行った。さらにナスの葉を使った叩き初めにも挑戦し、自然素材による造形活動へと発展した。

完成したバンダナはピクニックごっこや洗濯ごっこ、発表会のチケット、クッキング活動時の着用など、日常の遊びや行事の中で活用した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

色水遊びでは「にんじんはうすいね」「たまねぎはみえるね」など、色の違いに気づく姿が見られた。布の染め物では「どんな色になるかな?」「オレンジかな?」と仕上がり进行を想像しながら取り組む様子があった。叩き染めでは、「とんとん」と初めて手にするトンカチの重みを感じながら、葉の形が布にうつることの驚きや喜びを感じる姿が見られ、自然素材への感心が高まっていった。お子さまの気づきや声を受け止めながら、「どうなるのかな?」「やってみようか?」と問いかけながら興味が広がるように関わった。お子さま一人ひとりが選択できるよう少人数で丁寧に関わった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

お子さまたちと「どうなるんだろう?」と結果を予想しながら取り組むことで、色を予想したり、友達の考えを共有できる時間が多く持つことができた。

保育者の問いや環境構成がお子さまの気づきや対話を広げていたことにも改めて気づくことができた。保育者が答えを示すのではなく、今後もお子さまの言葉や発見を丁寧に拾い、「考えること」「試す事」「お友だちと共有すること」が楽しいと感じられる保育を大切にしていく。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0478
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	東京都八王子市高倉町4 6 - 1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

科学・SDG's・生きもの
(地球のことを調べられる“アースボール”とタブレット端末、スマートフォン
を使用した活動)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
日頃より、地球儀を眺めたり世界の国旗の絵本などを集中して見る姿があった。その興味関心を更に深く調べられるよう、アースボールの教材を導入した。アースボールでは、地球のことを細かく(人口やリアルタイムの天気や特産物など)知ることができたり、現在にはいない恐竜などの生き物についても知ることができるため、科学やSDG's、生き物など、幅広いテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

令和7年4月から令和8年3月まで

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・タブレット、スマートフォン(端末機器)
・アースボール
・明るい照明の部屋

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

地球儀で気になった国を端末でかざすと、その国の情報がわかり、お子さまが主体的にタブレットを手に取り調べられるようにした。クイズなどもあり、お子さま達と一緒に「どうしてだろう?」と考えるきっかけを持つことができ、すぐに答えがわかる為、さらに深い興味関心へと繋がっていった。また、現在にはいない恐竜などの生き物についても知ることができ、興味の幅が広がっていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「きょうりゅうがとびでてきたー!」と、室内に映し出される恐竜の観察をしたり、「このこっきは、“かなだ”だって!」と、国のことへ興味を持つ姿が見られた。地球儀に端末をかざすと、世界の国のことがリアルタイムで表示される。人口や現在の気温などを見て、「にほんよりさむいんだって」などと会話をしながら、世界のこと興味を持つ第一歩となった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・クラスに地球儀や世界の国旗の絵本は置いてあったものの、そのからの興味を広げることが難しかった。アースボールを導入してからは、気になることをリアルタイムで知ることができ、お子さまの探求心を損なうことなく、育むことが出来た。世界のことだけでなく、恐竜など現在にはいない生きものについても知ることが出来て良かった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0478
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	東京都八王子市高倉町4 6 - 1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動（ドッジボール）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
昨年度の年長さんと一緒に行ったことから、ドッジボールへの興味関心が強く、日中の活動でも夕方の時間にも楽しんでいる。様々なボールを使用して行っていたが、正しく体を使いながら、運動遊びを楽しんで欲しい気持ちがあり、ドッジボール専用のボールを購入し、活動を進めた。

2. 活動スケジュール

令和7年4月から令和8年3月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・ラインマーカー
- ・ボール
- ・戸外やホールなど、広い環境

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

始めは年長児クラスで行っていた。様々なボールを用いて行っていたが、力の加減や体の使い方がものによって差がある為、ドッジボール専用のボールを購入し、楽しんだ。夕方など一緒に過ごす時間に4歳児クラスのお友達も興味関心を持ち始め、一緒に行く。

姉妹園でもドッジボールへの興味関心が高まっているとの情報があり、学園ドッジボール大会を計画し、実行した。各園練習を重ねたり作戦を考えたりして臨み、大盛り上がりとなった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「〇〇ちゃんパス!」「〇〇くんがんばれー!」と、コミュニケーションを取りながら楽しんでいた。慣れ親しんだルールを、もっとこうしない?などと提案したり、受け入れたりしながら、様々なルールの元、楽しんでいた。先生 対 お子さま との提案などもあり、保育者も含め楽しみながら運動遊びを行うことが出来た。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

コミュニケーションが必須の遊びであるため、日頃一緒に過ごすことが少ないお子さま同士も一緒に楽しめる運動遊びであると再認識した。様々なボールで変化を楽しむこともいいが、その遊び専用のものを適切に使用することで、体の動きなどが備わると感じた。また、古くなったボールなどは早めに見極め、使用できるものをお子さま達におろすことが重要であると感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0478
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	東京都八王子市高倉町4 6 - 1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然、食育(収穫)、SDG's

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
食育とSDG'sに力を入れている園ということもあり、食や”もったいない”という言葉へ非常に興味関心が強いお子さま達の姿がある。食べ物を収穫する経験をしてほしい、また食材を無駄にしないだけでなく、当たり前で捨てるもの(皮)が使えるものに変身するという気づきを学んでほしい。

2. 活動スケジュール

令和7年11月7日(金) から令和7年12月22日(金)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・みかん狩りで出たみかんの皮
- ・排水溝ネット
- ・お湯
- ・タライ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

みかん狩りで出たみかんの皮をもったいないと持ち帰る。SDG'sについて調べたところ、ゆずの皮で、入浴剤にできる内容を見つけた。みかんでも代用できないかとお子さま達から声が上がリ、実践することとなる。

1週間ほど日光に当てて乾かし、乾いたものを排水溝ネットに入れたら、入浴剤が完成。気温が下がる12月に、お湯を用意し、その中に入れて足湯を楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

毎日、乾燥させた皮を観察して、「パリパリになった!」「かたくなってる!」と観察を楽しんでいた。「においがしなくなってる…」と、乾かすと手触りだけでなく匂いにも変化が出たようで、五感を使って皮の変化を楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

食育活動(収穫)という経験からSDG'sまで繋げることが出来、お子さま達の興味関心の幅を大きく広げることが出来た。きっかけはみかん狩りをやってみたくらいから始まったが、そこから調べるという経験を通してSDG'sへと繋がり、大人である保育者も学びとなった。

お子さま達にとって皮を再利用して足湯にすることは、楽しい活動であったと思うが、それがSDG'sを考える第一歩となったのではないかと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0478
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	東京都八王子市高倉町 4 6 - 1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動あそび
ロープ引き

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
日頃より、パワーグリップ体操に取り組むなど指先を使う運動を実践していた。バルーンや鉄棒に加え綱引きを楽しんでいたが、ロープが太く新たに子どもの手に合うものを購入した。
少人数のグループごとにも行えることで運動の得手不得手、体力に関わらず楽しめる活動となった。

2. 活動スケジュール

令和7年4月から令和8年3月まで

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・ホールを広く使えるようにした。
・ホールにラインをマスキングテープで引き真ん中、ゴール地点をわかりやすくした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

パワーグリップ体操に取り組む中で鉄棒、バルーンに加えて綱引きを取り入れた。ロープが太かった為ロープ引き用の細いロープを購入し実践した。異年齢交流を交え他クラスとも交流しながら体を動かすことを楽しんだ。また、日々ロープ引きを行うことで指先の力がつき鉄棒、うんていなど他の運動に興味関心が繋がった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

コスモスさんの力がつよ〜い！

どうやったら勝てるかな？など勝つことへの意欲に繋がった。

負けたら悔しいどうやったら勝てるのかなど気持ちの切り替えに繋がる姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

勝ち負けがあること、勝ったら嬉しい、負けたら悔しい気持ちの育みに繋がった。異年齢交流をすることで力が強い、足が速い！など他クラスの友達の良い所に気付くきっかけとなった。

どうしたら勝てるのか？を子どもたち自ら考える姿があり、他の遊びの際にも考える姿が増えた。

手の力が強くなり、雲梯や鉄棒などほかの運動遊びがたのしめるようになるなど遊びの幅が広がることを改めて感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0478
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	東京都八王子市高倉町4 6 - 1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然あそび・食育・造形
(梅もぎ体験・梅干しづくり・おにぎり作り・お皿作り・味噌づくり)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
季節の自然に実際に触れながら、見たり・触れたり・香りを感じたりと、五感を使って楽しめる経験につなげていきたいと考えテーマを設定した。収穫した梅を使って「うめじゅーすがつくりたい!」「うめぼしがつくりたい!」など食への関心を深めていく姿が見られた為、クッキングや造形活動へと展開させながら食への探求心を広げていきたいと考えた。

2. 活動スケジュール

6月梅もぎ体験・梅の選別・梅ジュースづくり・味噌づくり・陶芸活動
7月梅干しづくり(梅仕事)・味噌・梅経観察
10月梅祭り
2月梅と味噌を使った調合体験

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・梅(干す用のざる、梅仕事掲示、梅の木の掲示、梅づくりの絵本、瓶)
・味噌(味噌作成キット)
・陶芸(土粘土、陶芸用の土、模様つけ用の素材)
環境⇒常に食が側に感じられるように、梅ジュースは保育室に保管。味噌や梅干しは暗くて涼しい場所を考えキッチンで保管した。

<活動の内容>

梅を使った調理のことを「梅仕事」ということを知り、栄養士と一緒に梅ジュース・梅干し作り、梅ジャム作りを行い、時間をかけて変化を楽しむ体験となる。梅干しおにぎりをのせるお皿を作ろうと、陶芸活動へと発展する。また、おにぎりと一緒に味噌汁も作りたいと、年長児と一緒に交流をしながら味噌作りを行う。味噌は11月になべっこパーティで使用して園全体で美味しくいただいたり、梅祭りを計画し、梅ジュースや梅ジャムを異年齢の友達や先生方に味わっていただいたりする会を行った。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

友達と一緒に「梅祭り」をやりたいというアイデアがお子さまから出ると、「いいね!」と輪が広がっていく様子も見られ、異年齢の友達に「おいしかったよ!」と感想を言われると、達成感に満ちた子ども達の姿が見られた。



<振り返りによって得た先生の気づき>

実際に自然に触れる体験を取り入れることで、子供たちの興味や関心が大きく広がることを改めて感じた。梅を「見る・触る・匂いをかぐ」といった五感を使った経験から、子供たちなりの発見や気づきが自然な言葉となり、対話から新たな活動が始まる楽しさを共に味わうことができた。保育者が答えを伝えるだけでなく、「どうしてだろう?」「どんなにおいかな?」と気づきを引き出す関わりを行うことで、子供動詞の会話や探求する姿につながることに気づいた。食育を通して異年齢での関わりを深めることで、今度は自分たちが年長になった時に、伝え合っていける環境を整えていきたいと感じる。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0478
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	東京都八王子市高倉町4 6 - 1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然・生き物への興味関心

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
法人内で運動、造形、食育、自然事象など様々な保育を探究するチームがある。生き物への興味関心を高める為、自然環境に近い形で観察出来るように、水槽やビオトープを設置した。

2. 活動スケジュール

令和7年4月～現在も継続中

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・水槽やビオトープ虫かごなど各保育室やエントランスに準備
・玄関に水槽を設置し、様々な生き物の観察をいつでも見るようにし、様々な生き物へ興味を広げられるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 昨年から継続でザリガニを園で飼育。産卵し増えたザリガニを複数の水槽に移し飼育を継続。飼育活動を通し、生き物への興味関心を高める。
- ・ 玄関にビオトープを設置し、金魚、メダカ、ドジョウ、カメを飼育。
- ・ 保育室ではダンゴムシ、カブトムシなどを飼育。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

ザリガニやメダカなどを飼育することで自然と「水槽を掃除する・エサをあげる・水を替える」という意識が芽生えた。異年齢交流をする中で小さいお子さまも「自分もやってみたい」という気持ちが芽生え保育者やお兄さん達と一緒にエサやりや水を替えるという姿が見られた。

また、自分たちのクラスでも生き物を飼いたいという気持ちが芽生え、生き物を大切にする気持ちを育んだ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 一つのクラスから始まった飼育活動であったが玄関に水槽を設置したことで、自然に他のクラスのお子さまも生き物に対して興味や関心を持つことができ、生き物を大切にする姿が見られた。
- ・ ビオトープを設置し、生き物の世話をしていくと「水が少ない、えさあげた？」「水が汚れている」などビオトープのある環境が自然となり、ビオトープ内の変化に気付くようになった。保育者が声を掛けなくともお子さま達の中でビオトープの変化に気付くようになることを知った。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0478
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	東京都八王子市高倉町4 6 - 1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音・音楽表現

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

敬愛学園は、0歳から本物に触れる教育を大切にしている為、日ごろから堰堤やホール・保育室で様々な楽器に触れ、音を感じて遊ぶ機会を多く持ち感性を育てている。色々な物や楽器に触れ、音や音楽を聴き、音の違いや心地よさを感じたり、みんなで演奏したり、リズムをとって体を揺らしたりする楽しさや面白さを味わいさらに興味関心を高めていきたい。

2. 活動スケジュール

毎月各クラスで音楽遊びを実施。

幼児クラスからは音楽推進の職員が音楽遊びに加わり、学園オリジナルの音楽教育を展開させている。

5月青空コンサート：乳児クラスのお子さま向けの演奏会をお庭で実施。

6月鍵盤らぼコンサート：鍵盤ハーモニカの音色を聴き、本物の音に触れる会を実施。

10月楽器ラボ：マリンバ・グロッケン・ティンパニ・大太鼓・小太鼓やリズム楽器などを並べ、全クラスのお子さまが楽器に触れるラボ

12月もものつどい：3歳児リズム楽器で演奏/4・5歳児リズム楽器・大物楽器で子どもオーケストラ演奏

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・園庭での演奏会「あおぞらコンサート」/鍵盤ハーモニカコンサート/もものつどい子どもオーケストラ/
楽器ラボ(ボンゴ・ジャンベ・マラカス・鈴・トライアングル・タンブリン・カスタネット・マリンバ・グロッケン・ソプラノ
鍵盤ハーモニカ・アルト鍵盤ハーモニカ・バス鍵盤ハーモニカ・大太鼓・小太鼓・ティンブトン・ティンパニ・和太鼓・キー
ボード・マラカス・フルーツシェイカー・シンバル・シンバルグリップ等)

・戸外で豊かな音楽遊びを行う為、ミニコンポを使用し、戸外でも音楽の音色に親しむ環境を整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

様々な楽器に触れながら、音の違いや鳴らし方に興味を持ち、自分なりに試したり友達と音を共有したりする姿が見られた。鍵盤ハーモニカらばコンサートあとは、選択遊びの時間に自ら鍵盤ハーモニカを手にとり、友達同士で音を奏で合う姿が見られた。また、発表会に向けて幼児組のお子さまがオーケストラの演奏を行う姿を見て、乳児組のお子さまがリズム楽器を手に、表現する姿も見られ、学び合い育ち合う姿が見られる。楽器遊びを通して、お子さまたちの「なぜ?」「やってみたい!」という気持ちが広がり、主体的な探究活動へとつながっていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

鍵盤ハーモニカらばコンサートでは、「どんな音がするかな?」「鍵盤を押す場所で音がかわるかな?」等、お子さま達がイメージしやすい動物などにたとえながら大きさや音の高低差を考えられる関わりをすることができた。「どうやったら音がでるのかな?」とお子さま達同士で考え、実際に楽器に触れてみることで音の出し方を知る楽器ラボでは、「このがっきをえんそうしてみたい!」とお子さま一人ひとりの憧れの気持ちや未来への期待に繋がる活動となった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

敬愛学園では4・5歳児クラスが鍵盤ハーモニカを取り入れながら音楽教育を行っているが、苦手意識のあるお子さまもいらっしゃる。息を吹き込むことで音がでる楽器の魅力を感じてほしいという思いを込めて、鍵盤ハーモニカらばコンサートを実施した。先生たちが演奏をしている楽器は、自分もできるんだ!という気持ちに変化をもたらし、選択遊びの時間にお子さま達だけで小さなコンサートを開いて音を奏でている様子が見られるようになり、楽器を見て・音を聴いて・全身で感じる体験がお子さま達の「やりたい!」「できる!」という無限の力を引き出すということが新たな発見となった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0478
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	東京都八王子市高倉町4 6 - 1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵画造形表現

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
絵画造形表現が好きなお子さまが多く、イメージを膨らませながら様々な物を作りあげる姿が見られている。園の取り組みとして、生活素材(廃材)を使用した活動を推奨しており、お子さま達が自由に表現できるよう、様々な描画材や素材などを選べる環境を整えている。

2. 活動スケジュール

令和7年4月から令和8年3月まで

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・ パッセル、クレヨン、マーカー、絵の具、スタンプなどの多様な描画材
・ 紙素材や布、木、ビニール素材、テープ、のり、ボンドなどの接着素材
・ 電子黒板
・ スマートフォン (カメラ機能)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

好きなタイミングで絵画造形活動が出来るよう、絵の具や描画材などが入った造形ワゴンを、保育室に設置した。動かすことが出来るため、好きな場所で行う姿が見られた。雑巾なども入れておくことで、始まりから片付けまで、お子さまが主体的に行う姿が見られた。

作った作品を、保育室前や展示室に飾り、保護者の方だけでなく他のクラスのお友だちも見られるようにした。また、スマートフォンのカメラ機能を活用し、自分の作品や友達の作品を撮影したり、お子さまの撮影したい風景や虫、物などを撮影しフィードバックの時間にクラス内で共有。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

テーマは決めながら、やりたい人が自由に好きなものを作る活動を意識しているため、お友だちどうでも、「これはなに?」「すてきだね」「これもみて、かわいいでしょ!」と、自分の作るものに対しての自信や、お友だちが作るものに対しては評価(うまい・へた)の言葉は使用せずに、認める姿が見られた。スマートフォンで撮影した写真を共有することで友達の視点、お子さまの視点の個性の面白さや感じたことの共有ができてコミュニケーションが深まった。また、写真もアートということを知る機会になった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

お子さまの主体性を育むため、絵画造形の時間を設けるのではなく造形ワゴンを設置しておくなど、きっかけづくりが大切であると感じた。作ったものをお友だちに発表することで、自分の作品に自信を持ち、さらに想像力・発想力を養うきっかけとなっていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0478
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	東京都八王子市高倉町4 6 - 1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動あそび

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園庭で体を動かすことや、友達と一緒に挑戦することを楽しむ子供たちの姿から、野球をテーマに取り入れた。園の特色である「主体的に取り込む活動」と結びつけながら、グローブやティーバッティングなどを使用した活動を通して、ボールを捕る・打つ楽しさを感じられるようにしていきたいと考えた。野球遊びを通して、ボールを「見る・投げる・捕る・打つ」などの様々な動きを経験し、手足や全身をうが貸す力や、バランス感覚、力加減を調整する力を養っていく。

2. 活動スケジュール

導入：「野球ってどんなスポーツ？」

基礎遊び：ボール転がし・的あて・キャッチ遊び・グローブで受ける練習

ティーバッティング：バッドの持ち方・ボールを打つ・飛ぶ方向や強さを試す

発展活動：チームに分かれてゲーム遊び・点数ゲーム・友達と作戦を考える

探求・制作活動：野球カード作り・応援グッズ制作・オリジナルユニフォーム作成等

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・グローブ ・ティーバッティング用スタンド ・バット ・テニスボール
- ・野球カードや写真

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子供たちが野球に興味を持てるよう、グローブやティーバッティングを取り入れた活動を行った。実際にボールを投げたり打ったりする中で、「もっと遠くに飛ばしたい」「捕ってみたい」など、繰り返し挑戦しようとする姿が見られた。また、友達同士で教え合ったり、応援したりする姿もあり、楽しみながら活動を行っている。活動を通して、野球への興味関心だけでなく、体の動かし方を工夫したり、友達と関わりながら挑戦したりする経験につながった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

世界で活躍する野球選手に興味を持った子供の声から、選手の写真を掲示したり、動画で動きを観察する取り組みをすると、「おおたにせんしゅになりたい!」と目を輝かせる子供の姿がみられるようになる。そのためにクラス全体を通して「たくさんごはんをたべるんだ!」と食量にも変化が見られるようになった。大きな夢を描く子供たちに憧れの選手に近づけるような温かい声掛けをしながら、人を応援することの楽しさや応援されることの喜びも感じられる取り組みとなっている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

野球というスポーツを知ること、身体だけでなく心の成長を促すことができるということに改めて気づいた。

活動を通して、子供たちは野球への興味を持ちながら、楽しんで体を動かす姿が見られる。また、野球遊びを継続的に取り入れることで、運動面だけでなく、友達との関わりや挑戦する気持ちも育んでいけるようにしたい。